

『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』
希望が丘夏休みわんぱくキャンプ 開催要項

1 テーマの設定および目的

【テーマ】 心から心へ ～自立と協力の7日間～

【目的】 参加者自身が自分と向き合い、まわりを見つめ、チームの一員として3つの項目の目的とする。

◎自分の参加動機とわんぱくキャンプの目標をしっかりと認識する。

◎そのために皆と考え方ややり方を話し合い工夫する。

◎参加者同士協力し、目標達成を目指して粘り強く取り組む。

↓

7日間の自然の中での生活を通して、「自分で考えて行動する力」と「仲間と協力して物事を解決する力」の2つの力を習得し、互いに心(非認知能力や生きる力等)を成長させる

2 主催

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

3 期日および時系列等

令和6年(2024年)

7月28日(日) 「事前研修会&出合いのつどい」10時から16時30分まで

9時30分:受付開始 / 16時30分解散

8月11日(日)～8月17日(土) 6泊7日 初日10時から最終日14時30分まで

9時30分:受付開始/14時30分解散

【サブタイトル】

まほう使いからわんぱくキッズへの挑戦状🐾 ～僕らの7日間冒険記～

【あらすじ】

竜巻に飛ばされて丘に迷い込んだわんぱくキッズ。家に帰るためには魔法使いから不思議な風船をGETして気球を作らなければならない。その風船をGETするためにその日ごとの魔法使いからの挑戦状を受けて立て。

令和6年8月11日(日) 1日目

<以下「GT」はグループタイムの略>

ー仲間を見つけて仲良くなれー

・昼 出合いの集い、お弁当支給、生活準備、KYT、ネーム作り

・夜 野外調理、シャワータイム、グループタイム (GT)

8月12日(月) 2日目

ー生き残るための術を身につけろー

・朝 朝ごはん、小ハイキング

・昼 お昼寝、昼食、ロープワーク

(防災食、RWを通して非常事態にも使える知識を身につける)

・夜 野外調理、キャンプファイアー、シャワータイム、GT

8月13日(火) 3日目

ー自然と共にチームスキルを身につけろー

・朝 朝ごはん、オーパルへ出発(マイクロバスで往復とも移動) AM活動

・昼 オーパルにて昼食(お弁当支給)

・夜 野外調理、ナイトハイキングにて青年の城へ、お風呂、GT

8月14日(水) 4日目

ー自分たちの力を試せー

・朝 青年の城での朝ごはん、野外活動センターへ移動、

秘密基地作り

- ・昼 昼食、お昼寝、食材調達戦（ネイチャーゲームの手法）
- ・夜 チャレンジクッキング、シャワータイム、GT

8月15日(木) 5日目

ー思い出を作れー

- ・朝 森の中の早朝ハイキング、(途中：朝食) 青年の城シャワータイム
- ・昼 食堂での昼食、昼寝、野外へ移動、クラフト等
- ・夜 野外調理、シャワータイム、ナイトプログラム、GT

8月16日(金) 6日目

ー魔法使いに成長を見せつけろー

- ・朝 朝ごはん、制作物
- ・昼 昼食、LNP（ラストナイトパーティの略）準備
- ・夜 早めの夕食となる「LNP」、キャンドルセレモニー、シャワータイム、GT

8月17日(土) 7日目

ー気球を完成させろー

- ・朝 朝ごはん、わんぱくタイム
- ・昼 お昼はお弁当、ふりかえり、別れの集い

【7日間で身につける力】

各日程でMLGsを通して、非認知能力である「主体性、協調性、目標に向かって頑張る忍耐力」を身につける

なお上記中、「8月13日(火) 3日目」は、琵琶湖でのプログラムを実施します
オーパルオプテックス株式会社

〒520-0101 滋賀県大津市雄琴5-265-1

チームビルディングプログラム（非認知能力を活かしたチーム力向上）

環境体験学習（SDGsを学ぶ）を体験します

※オーパルのスタッフは自然環境のプロです。安全研修を行い、緊急事態や季節ごとの環境変化への対応を万全にしています。

4 場 所

滋賀県希望が丘文化公園 野外活動センターを中心に公園内およびその周辺
(滋賀県蒲生郡竜王町薬師1178)

5 対 象

滋賀県在住在学の小学4年生～小学6年生

6 定 員

60名(申込多数の場合は抽選)

7 参加料

20,000円(教材、食費、保険料等含む)

8 現状と課題および事業概要等

【現状と課題】

- ①「生きる力」や「非認知能力」への、こどもたちの関心の薄さは、ここ数年のコロナ禍の弊害が大きな要因であり、対面経験の欠如やフィールドワークの体験機会の減少、ネット環境における仮想体験への偏りなどが起因し、また学校現場でこういった機会が減少している。

特に小学生の成長における「体験」の繰り返しより

- ・相手の気持ちを読み取る力
- ・自分の気持ちを表現する力
- ・自分を好きだと思ふ気持ち
- ・他者への思いやりの心 など

難しい状況であることが現状であり、解決していく課題と考える。

②自然や環境への理解不足も、状況は左記と同様である。SDGsは、学校で学ぶ機会は増えているが理論や卓上での議論が多く、実体験での行動は難しく、提示されたことは取り組むが、自分を取り巻く環境で自ら考え、継続して行動する機会は少ないことが現状であり、この方向性を大切にすることが課題である。

【事業概要】

自然を楽しみながら学ぶ場を提供し、びわ湖版SDGs「マザーレイクゴールズ(MLGs)」の枠組みの中で、このキャンプ事業において、以下4項目の目標を定め、その達成のため、子どもたちが自主性や協調性を身につけ、野外活動や自然活動の各種プログラムを体験してもらう。

この7日間の体験で、参加者の「生きる力」や「非認知能力」の向上に工夫を凝らし、心身の健全な発達を促し、また環境負荷低減について少しでも理解と行動が今後できるようにする。特に心の成長である、「思いやり」「強い気持ち」「絆」等そして「感動」の主観的な指標も大切に、事業を実施する。

○滋賀県が2021年7月1日、マザーレイクゴールズ推進委員会が掲げた「Mother Lake Goals 変えよう、あなたと私から」から事業プログラムを展開。具体的には13の項目から以下の4項目に絞る。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 3 「多様な生き物を守ろう」 | ・身近な自然を知る、学ぶ / ・間伐等、森林保全活動 |
| 4 「水辺も湖底も美しく」 | ・ゴミ排出量の削減 / ・マナーを守っての行動 |
| 5 「恵み豊かな水源の森を守ろう」 | ・里山の保全 |
| 6 「地元も流域も学びの場に」 | ・自然体験プログラム |

上記の項目を中心に、計画、実践を行う。

※参加者にはわかりやすく、できるだけ簡易に安心して取り組んでいただくよう、工夫する。

滋賀県のHP

<https://mlgs.shiga.jp/>

<https://mlgs.shiga.jp/mlgs/13goals>

このサイトを、保護者から子どもの目線でどんなことができるかなあ
キャンプを通じてやってみよう!と書いていただければ、大丈夫です

○食事は基本野外調理です。野外活動体験、自然体験活動では、その時の気象状況や参加者の体調管理に注意しながら計画実施します。テント泊について、夏の蒸し暑い時期ですが、雨が降るなど気温が低くなることあります。キャンプの基本ですが、暑さ寒さは、着衣で調整します。

【参加にあたってのお願い】

参加決定後、事前アンケートを送付、7月28日(日)保護者、参加者からのアンケートをいただき、内容の説明と事後アンケートを依頼します。必ず回答、提出方お願いします。事後分は8月24日(土)必着になります。

(郵送代金等は公園で負担します)また参加者には、キャンプ期間中および最終日等に聞き取り方式も併用しますが、個人が特定される項目はありません。最終報告書は各参加者にも送付いたします。

●アンケート手法の一部紹介:野外活動体験、自然活動体験およびMLGsの4つの視点をIKRの評価方法と組み合わせて検証指標とします。

9 申込方法

Eメールで、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・性別・生年月日・学校名・学年(年齢)・電話番号・メールアドレスおよび参加の動機を明記のうえ申し込む。

10 募集期間

令和6年(2024年)6月14日(金)～6月28日(金)

11 問合せ・申込先

滋賀県希望が丘文化公園 野外活動課

〒520-2551 滋賀県蒲生郡竜王町薬師1178 滋賀県立希望が丘野外活動センター

TEL:077-586-1100 FAX:0748-58-0220

Eメール:e-yagai@kiboupark-shiga.or.jp

<詳細補足説明>

MLGs 13のゴール・・・<以下詳細>

2030年の琵琶湖と琵琶湖に根ざす暮らしに向けた13のゴール

マザーレイクゴールズ (Mother Lake Goals, MLGs) では、2030年の持続可能社会へ向け、琵琶湖を切り口として独自に13のゴールを設定しています。



Goal 3 | 多様な生き物を守ろう

生物多様性や生態系のバランスを取り戻す取組が拡大し、野生生物の生息状況が改善するとともに、自然の恵みを実感する人が増加する



Goal 4 | 水辺も湖底も美しく

川や湖にゴミがなく、砂浜や水生植物などが適切に維持・管理され、誰もが美しいと感じられる水辺景観が守られる



Goal 5 | 恵み豊かな水源の森を守ろう

水源涵養や生態系保全、木材生産、レクリエーションなどの多面的機能が持続的に発揮される森林づくりが進み、人々が地元の森林の恵みを持続的に享受する



Goal 6 | 森川里湖海のつながりを健全に

森から湖、海に至る水や物質のつながりが健全に保たれ、湖と川、内湖、田んぼなどを行き来する生き物が増加する